

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 羽島北高等学校学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年6月21日(月) 13:00~14:00
- 3 開催場所 羽島北高等学校 会議室
- 4 参加者
会長 三輪 浩子 社会福祉法人羽島郡福寿会事務局長
(羽島北高同窓会員)
副会長 永田 友美 羽島北高PTA会長
委員 青木 秀益 柳津青少年育成市民会議推進委員
熊谷 康 カラフルタウン岐阜プレジデント
河野 公洋 岐阜聖徳学園大学教授(代理で蔵研也准教授ご出席)
近藤 芳子 柳津佐波女性の会
廣瀬進一郎 地域自治会顧問(ご欠席)
(敬称略・委員は五十音順)

学校側 林 靖 校長
西村 美穂 教頭
石原 康秀 教頭
瀬瀬 和也 事務長
加藤 秀徳 教務主任
福島佳代子 進路指導部長
前田 輝美 生徒指導部長

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和3年度学校経営計画(高等学校版マニフェスト)について
- (2) 昨年度の課題と今年度の取組について

【学校側説明】

①教務部

- ・単位制完成・生徒一人一台タブレット貸与による授業改善
- ・充実した教育課程とフィールド選択を通しての進路支援

②進路指導部

- ・ICTを活用して段階に合わせ進路行事や企画を実施
- ・早期からの一人一人に合わせた指導(フィールド選択を通して1年次から個別支援実施)

③生徒指導部

- ・安心して過ごせる学校・生徒に寄り添った生徒指導
- ・情報モラルの育成やいじめ防止を重視・制服の検討

【委員からの意見・提言】

＜単位制について＞

意見1：羽島北高の単位制とはどのようなものか。

⇒学年制のように学年単位での修得ではなく科目単位の修得をめざす。また選択科目も多く自分の進路に合わせた授業を選ぶことができる。

意見2：クラス編成はどうか。

⇒ホームルームはあるが文理分けや国立大志望クラスの設置等に行っていない。個々の生徒が自分の選択に一定の責任を負うシステムである。

意見3：学年制のように決められたルールがないというのは、生徒にとって負担でもあり楽しみでもある。

＜進路指導について＞

意見1：2年次からフィールドに分かれるということだが途中で進路変更したい場合はどう対応しているか。

⇒進級時にフィールド変更可能だが、新たな進路実現のための科目を学ぶことは必要。

意見2：高卒公務員や専門学校への進路希望者にはどう対応しているか。

⇒初期には様々な進路を紹介している。意志がある程度定まればガイダンス等を実施する。学校では個々の生徒のサポートを重視している。

意見3：多様な進路希望に今後も柔軟に対応していただきたい。

＜制服について＞

意見1：現在、コロナ禍の関係で制服と私服併用とのことだが、風紀の乱れは生じていないか。

⇒私服は「トレーニングウェア等」としており、着用生徒は多いが雰囲気は落ち着いている。洗濯はもちろん天候や体調による調整がしやすい。

意見2：開かれた感じもある一方、ゆるみたるみにつながる感覚もある。奇抜な格好は別だが、現状のようならよい。

意見3：制服廃止で私服だけになることに対しては様々な問題があり結論の判断は難しい。

意見4：制服・私服両方に利点がある。

意見5：安心なのは制服だが、個を重んじることを第一に考えたい。

意見6：生徒の自主性・自己表現の自由を認めないのは現代に合わない。しかし、なんでもよいわけではない。また、制服と私服の選択ができることは自由の尊重につながる。

意見7：高校生が学生らしさを考え服装を選ぶ経験が、将来に生きるように思う。

(3) 本校のスクール・ポリシーについて

第2回の学校運営協議会で学校としての原案を出し、検討のうえ、策定する。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会において、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・本校の単位制の展開や進路指導、生徒指導等の進もうとしている方向に対し、「全体として生徒の人権を尊重した統一感があるものだ」という評価を得られた。また教育の内容についても、「課題探究型学習など、社会に出て必要とされる力を育成する要素が凝集されている。どんどんやってほしい。」という言葉をいただけたことは、我々教員にとって大きな力になった。

- ・第2回学校運営協議会では、「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果や「スクール・ポリシー」の策定に対するご指導ご助言をいただく予定である。